

カール=ハインツ・シュツツ(フルート)& 吉野直子(ハープ) デュオ・リサイタル

ウィーン・フィルソロ・フルート奏者と
日本を代表するハープ奏者による
華麗なるデュオ



©Akira Muto

©T.Tairadate

2025年6月6日(金) 19:00開演(18:30開場)

 日本製鉄 紀尾井ホール

全席指定(税込): S席6,000円/A席4,000円/25歳以下3,000円

※25歳以下チケットは公演日当日25歳以下の方がご購入頂けるチケットです。当日、年齢を証明できる身分証明書をお持ちください。

一般発売 2月28日(金)

ご予約／お問い合わせ: チケットスペース 03-3234-9999(10:00~15:00 ※休業日除く)

チケットスペースオンライン [プレイガイド]

teket(電子チケット)



チケットぴあ t.pia.jp
イープラス eplus.jp
ローソンチケット l-tike.com

村松楽器販売(株) 新宿店 03-3367-6000



主催: ヒラサ・オフィス 03-5727-8830(平日10:00~17:00) www.hirasaoffice06.com

協力: (株)村松フルート製作所

【プログラム】

モーツァルト: ソナタ ハ長調 K.14 (フルートとハープによる)

サン=サーンス: ヴァイオリンとハープのための幻想曲 作品124
(フルートとハープによる)

ダマーズ: フルードとハープのためのソナタ第1番

ジャン・クラ: フルードとハープのための二重奏曲

武満徹: 海へ

ドップラー/ザマラ: カジルダ幻想曲

※都合により曲目等が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※チケット購入後のキャンセル及び変更はできません。

※車イスでご来場されるお客様は、ご購入前にチケットスペース(03-3234-9999)まで必ずお問い合わせください。

フルートとハープの組み合わせは、お互いの魅力を引き立て合い、美しく調和したハーモニーを奏でます。この2つの楽器を象徴する作品のひとつが、モーツァルトがパリで作曲した有名な二重協奏曲です。この作品をきっかけに、フルートとハープは多くの作曲家にインスピレーションを与えました。

今回のプログラムでは、この2つの楽器が織りなす豊かな音色の世界をお楽しみいただけます。日本を代表する作曲家・武満徹の作品「海へ」では、フルートとハープが水面に映る光のような流動的な響きを奏で、独特の色彩を描き出します。また、オーストリアやフランスの作曲家たちの作品も取り上げ、その中にはジャン＝ミシェル・ダマーズやジャン＝クラによるフランスの印象主義的な作品が含まれています。

音楽の神童と称されたサン＝サーンスの「ヴァイオリンとハープのための幻想曲 作品124」は、19世紀末のパリの雰囲気の色鮮やかに描き出しています。さらに、オーストリア・ハンガリー出身のフルート奏者で作曲家、ウィーン・フィルの創設メンバーでもあったフランツ・ドップラーと、当時の名ハープ奏者アントニオ・ザマラによる「カジルダ幻想曲」では、フルートとハープの技巧的な魅力が存分に発揮され、プログラムのフィナーレを華やかに飾ります。皆さんに会場でお会いできることを楽しみにしております。

カール＝ハインツ・シュッツ



© T.Tairadate



© Akira Muto

Karl-Heinz Schütz, flute

カール＝ハインツ・シュッツ(フルート)

ウィーン・フィルのソロフルート奏者。

バーゼルでニコレに、フランスでベルノーにそれぞれ師事。2000年にリヨン音楽院を卒業。在学中の1998年にカール＝ニールセン・コンクール、1999年にクラコフ・コンクールの2つの国際的コンクールで優勝。以来、世界中でコンサート活動を展開し、ソリストとしてダニエル・バレンボイム、サー・ネヴィル・マリナーといった数々の指揮者と共演。また、ウィーン・フィル、NHK交響楽団など数多くのオーケストラと共演、様々なフルート協奏曲を演奏してきた。

室内楽奏者として、ザルツブルク音楽祭、札幌PMFなどの著名な音楽祭に出演。

2005年からウィーン市の音楽美術私立大学で教鞭を取っているほか、ジュリアード音楽院、マンハッタン音楽学校、草津など、国内外で定期的にマスタークラスやワークショップを行っている。

2000年から2004年までシュトゥットガルト・フィル、2005年から2011年までウィーン交響楽団のそれぞれソロ・フルート奏者を務めた後、2011年からウィーン・フィルとウィーン国立歌劇場管弦楽団のソロ・フルート奏者。

2013年にヴォルフガング・シュルツの後任として、アンサンブル・ウィーン＝ベルリンとウィーン・リング・アンサンブルのメンバーになる。

バッハ、ピエール＝ブレーズ、武満徹、など幅広いレパートリーで数多くの録音がある。

故郷チロル州のランデックでは、現地の音楽週間HORIZONTEの音楽監督を務めている。

ムラマツ・ジャパンの24金のフルートと、エマニュエル・ボストンのシルバーのフルートを使用。

Naoko Yoshino, harp

吉野直子(ハープ)

ロンドン生まれ。6歳よりロサンゼルスにて、スーザン・マクドナルド女史のもとでハープを学ぶ。1981年第1回ローマ国際ハープ・コンクール第2位入賞。85年第9回イスラエル国際ハープ・コンクールに参加者中最年少の17歳で優勝。

これまでに、ベルリン・フィル、イスラエル・フィル、チューリヒ・トーンハレ管、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フィルハーモニア管、フィラデルフィア管、ウィーン・コンツェントゥス・ムジクスなどのオーケストラや、アーノンクール、メータ、ブレーズ、プロムシュテット、メニューイン、小澤征爾など国内外の著名オーケストラや指揮者と共演を重ねている。リサイタルも世界各地で開催、また、ザルツブルク、ルツェルン、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン、マールボロ、セイジ・オザワ松本フェスティバルなど、世界の主要音楽祭にも度々招かれ、常に好評を博している。室内楽の交流も幅広く、クレーメル、ハーゲン、今井信子、ニコレ、ランバル、シュルツ、パユ、バボラークなどと共演を重ねてきた。また、ハープの新作にも意欲的に取り組み、武満徹「そして、それが風であること知った」、細川俊夫「ハープ協奏曲」など初演した作品も数多い。

レコーディング活動も活発で各レベルで多数録音するほか自主レベルのグラツィオーソ(grazioso)を創設し録音プロジェクトを開始。最新盤は「ハープ・リサイタル ～Intermezzo～」。

2021年度毎日芸術賞特別賞等を受賞。国際基督教大学卒業。



日本製鉄 紀尾井ホール

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号

最寄駅:

四ツ谷駅	麹町口(JR線、丸ノ内線、南北線)ほか 徒歩6分
麹町駅	2番出口(有楽町線)徒歩8分
赤坂見附駅	D出口(銀座線・丸ノ内線)徒歩8分
永田町駅	7番出口(半蔵門線・有楽町線)徒歩8分

